



大麦の鋤き込み

丹波黒大豆の良品多収栽培のポイントのひとつに「根粒菌が活動しやすい条件づくりと土壌の物理性改善」があります。(根粒菌は微生物で大豆の根の部分に根粒をつくってそこで生活させると根粒菌が空中窒素を固定してあまった部分を大豆が栄養分としています。大豆の体内に蓄える全窒素量のうち根粒菌由来の窒素が占める割合は5割とも8割ともいわれ根粒菌由来の窒素をいかにうまく取り込めるかが重要とされます。その根粒菌が開花期を過ぎたころから活性が低下するといわれ夏場の乾燥や排水不良による湿害が発生すると活性は急激に損なわれます。このため、完熟堆肥などの有機物投入を続けることが土が膨軟で保水性や排水性にも優れ根や根粒菌の活動を長期間阻害しにくい圃場づくりにつながります。生育期間が非常に長い「丹波黒系」栽培にはとくに効果が高いと考えられる。完熟堆肥の投入については、日頃心掛けていただいているところです。また、「富山県農総センターによると同じ圃場で大豆の作付け回数が多いほど土壌中の可給態窒素量が少なく収量が低いことがわかりました。可給態窒素は微生物が分解、無機化し、作物が吸収可能な窒素で化学肥料を多く施用しても大豆の生育に重要な根粒菌の定着が抑制され、増収に結び付かないこともわかりました。研究では、圃場の可給態窒素を高めたり、根粒菌の定着を改善する対策技術として「地域に合う有機物施用が有効」との成果を取りまとめられました。これらの報告により、阿戸町柚木寛機様の丹波黒大豆を3年作った圃場で大麦(品種ワセドリ2条)を平成23年11月14日播種、平成24年4月18日にトラクターで鋤き込み耕運をいたしました。無肥料で栽培して4月16日に地上部重が2.5 kg/m²(これに地下部が加わります)ありました。

また、大麦は、根が深くまで張り、圃場の排水が良くなります。根粒菌の活動しやすい圃場づくりの為、大麦を緑肥として鋤き込み、土壌改良の試験をしています。丹波黒大豆を植え付けた後の報告もしたいと思います。種子は、1 kg 750 円、播種量 6 kg/10 a、堆肥の散布は般作物の場合、1年間で2 t/10 aの有機物の消耗があると言われるので施しますが散布は重労働です。



堆肥散布



出穂直後草丈六〇cm

大麦
4/16

育苗センターでは・・・

水稲苗出荷 4月1日に第1回目1タイプの播種を行い、4月12日～13日と出荷をいたしました。育苗センターの苗は種子消毒を60度の温湯で行い農薬を省いております。4月13日には、2タイプの播種を行い、24、25日に出荷をいたしました。6月上旬まで順次生産を行います。現在の水稲苗予約状況は、昨年より多く18,095箱です。育苗センター職員一同良品質苗を皆様にお届けするよう頑張っております。

アスパラガス苗出荷 4月2日 育苗センターで生産したアスパラガス苗を各支店に118束(590本)出荷いたしました。アスパラガスは、長野県で有名のように高冷地野菜で高温多湿には弱い野菜です。当地区では、梅雨時期に茎疫病の基幹防除が組まれています。JA全農ひろしまでも奨励品目のひとつで、三次では作付けが増えて有望品目のひとつです。栄養価があり、調理が簡易なことから消費者にも人気の野菜のひとつです。

春野菜苗出荷 4月16～18日に12月より育苗した春野菜苗を各支店に出荷いたしました。

長ナス	7200 鉢	中長ナス	2000 鉢
ピーマン	3384 鉢	キュウリ	7320 鉢
ミニトマト	1512 鉢	トマト	9080 鉢
シントウ	600 鉢	スイカ	1400 鉢



教材本の配布

小学生に農業の理解を深めるために書いた教材本「農業とわたしたちの暮らし」を市町教育委員会へ1,385冊寄贈して各小学校の児童へ渡してもらいました。

バケツ稲づくり

次世代を担う子どもたちに、バケツで稲を育てるという一連の作業を通じて農や食に関心をもってもらうとJAグループ主催のもと取り組みを行っています。種もみ、肥料、バケツ稲づくりマニュアルを無料で配布しました。昨年は、管内の3校が取り組み指導に行きました。

稲作講習会の開催日

日時	6月11日(月)		6月12日(火)		6月13日(水)		6月14日(木)		6月15日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀 2階	中須賀 2階	東海田 2階	阿戸 2階	上瀬野 3階	中野 2階	瀬野 3階	萩原 2階	追分	初神 老人集会所

日廻り市総会

平成24年度日廻り市場グループの通常総会が平成24年4月18日に東部健康センターで行われました。



5月営農メモ

水 稲

◎本田の準備

代かきは田面を均平にし、苗立ちの良い硬さにするとともに除草剤の効果を高めることができます。このとき練り過ぎますとガス障害のため初期成育に悪影響を及ぼします。一般土壌では田植え4~5日前に代かきをすると土の固さが安定し良い状態になります。柔らかすぎると深植えになりやすく、固いと浅植や浮き苗の原因になります。

◎基 肥 基肥は地力で足りないチッソ・リン酸・カリを補給し、必要茎数を確保するために施用します。稲作ごよみの施肥例を参考に、昨年の水田ごとの生育状況を考慮し、施肥設計します。昨年休耕した水田や野菜あとで作る水田では基肥を少なめか無しにします。基肥一発型のJB575Mは、コシヒカリなどの早生品種に、JB555Mは、ヒノヒカリなどの中生品種に使用でき、追肥・肥穂が不要で省力ができます。穏やかに効き、葉色は薄めに生育します。(天候によっては穂肥が必要な場合があります。)

◎田 植 え 大株植えや密植は過繁茂となり、収量・品質低下や倒伏の原因になるばかりか消えてゆくむだな茎も多くなり、思った程収量・品質は上がりません。1株当たり3~5本とし、植付け間隔は条間30cm×株間16.5~18cmを目安にしてください。ただし、株の張りにくい田ではやや狭めに植付けてください。補植は3株以上欠株の場合のみとし、1~2株程度の欠株は、その周囲の株張りが良くなるのでほとんど影響しません。

◎箱 施 用 剤 圃場や品種の適したものを選び、なるべく当日の施用は避け登録の範囲内で早めに散布した方が効果が高まります。除草剤と間違えないように散布前にもう一度確認してください。

◎田植え後の水管理 苗が活着するまでは、水を溜めてかけ流しを避け、積極的に水温を上げます。今年は低温が予想されますので、早期の田植の場合の特に注意をしてください。活着後は、ときおり水を落として土中に空気を入れ、根を元気にします。夜間や日中でも曇って寒い日や風の強い日は、やや深水とします。

◎活着期~分けつ期 活着して葉色が出てきたら、3~4日おきに水を落とし、田がわくのを防ぎます(間断かんがい)。ただし、漏水田で田干しのやりすぎは雑草が発生するので注意してください。

◎追 肥 分けつを促進するとともに、穂肥まで下限葉色を維持します。コシヒカリ、コノエモチは、田植え後7日、ヒノヒカリ、あきろまんは、田植え後10~14日頃中間追肥を施用します。

◎除 草 剤 散布方法や条件に適応した農薬を選び適期に使用し、除草効果を高めましょう。散布前には必ずラベルを確認し、しっかり水を溜め散布後3~4日は3~5cmの水位を保つ様に静かに入水し、田面が露出しない様に水管理を徹底して下さい。そうする事でかなり効果が高まります。 ※散布後7日間は落水、かけ流しをしないで下さい。

果 樹

柿

5月には新しい枝が伸び、蕾が見え開花してきます。大きな果実にするためには、枝の整理(芽かき、誘引等)摘蕾を行います。枝の整理は風の通りが悪いとか、日当たりが悪い所ができるようであれば、新しい枝をかぎ取ったり、ひもで引っばたりして(新しい枝を引っばると折れるので注意する)日光が当たるようにします。摘蕾は摘果より実の肥大に効果があります。摘蕾の程度は通常1結果枝に1蕾残します。大きな果実を作る場合は結果母枝より出た枝数の2分の1数、果実を残すようにします。(品種によっては生理落果の多いものがありますので2割ぐらい多めに残しておき、最終的に残す果実を目的数にします。)

果実は結果母枝の先端または先端に近い枝ほど大きくなります。蕾は下向きの大きな物を残します。

いちじく

果実に当たる光の量を制限した実験で見ると、果実に当たる光の量が少なくなるほど果実は小さくなり熟期が遅れて収穫果数が減少し、収量は少なくなります。また、同様に果実の着色も悪くなり、内容成分も少なくなって品質が低下します。着色がよく糖度の高い果実を生産するためには枝の芽かき、誘引、間引きなどが必要です。展葉2~3枚のころ密生部の新梢、徒長的新梢、生育が劣る新梢、主枝や亜主枝の背面から直上する新梢を樹勢に応じて1~3回に分けて芽かきをします。

野 菜

苗について 5月に入ると先月定植した苗が生育し、株が大きくなってきます。連休明け頃にはトンネルなどの被覆資材を撤去し、支柱を立てて樹がぐらつかない様にしましょう。わき芽も大きくなってきますので不要な芽は早めに取り除きましょう。

追 肥 定植後20日位になると肥料が切れ始めますので追肥を開始します。以降、葉色を見ながら15~20日おきに追肥します。施肥位置は追肥毎に場所を変えて施しましょう。追肥後晴天が続く様であれば灌水もしておきましょう。

摘 果 果菜類の場合、樹の生長と同時に果実の肥大を行うため、樹が小さい時から実を着けると生育が悪く収量が減少しますので、生育を見て摘果を行いましょう。特にナスやピーマン、キュウリでは注意しましょう。トマトでは一果房に一段目では3~4玉、以降は4~5玉着果させ、多く着果した場合や、果実に傷などの障害があるものは早めに摘果しておきましょう。

病 害 虫 4月下旬よりアブラムシやウリハムシなどの害虫が発生していますので、発生初期に防除を行いましょう。ナスでは今月下旬頃よりハダニが発生してきます。殺ダニ剤は総使用回数が少ない薬剤が多いので散布の際は注意して下さい。ウリ類やエンドウ類ではうどん粉病が発病しやすくなります。

今月種まきできるもの

ウリ類、エダマメ、オクラ、スイートコーン、ゴボウなどが播種できます。